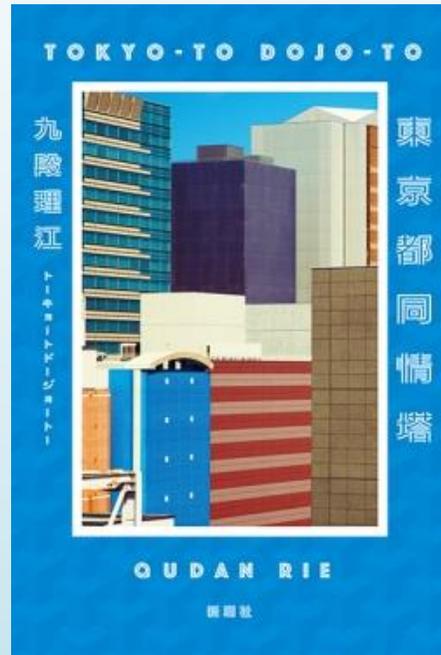


第170回 芥川賞・直木賞受賞作

【芥川賞】

九段 理江

『東京都同情塔』

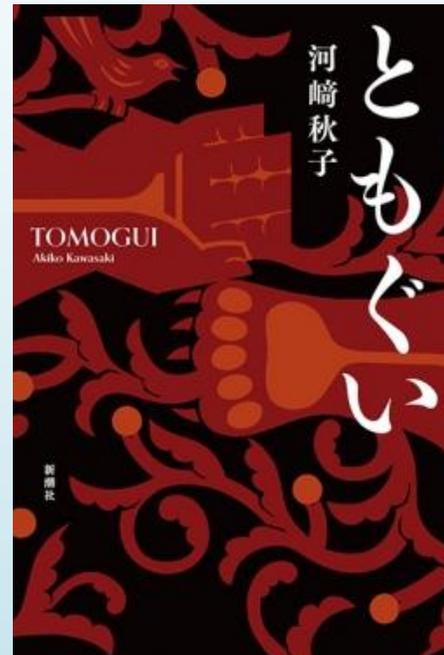


ザハの国立競技場が完成し、寛容論が浸透したもう一つの日本で、新しい刑務所「シンパシータワートーキョー」が建てられることに。犯罪者に寛容にならない建築家・牧名は、仕事と信条の乖離に苦悩しながら、パワフルに未来を追求する。ゆるふわな言葉と実のない正義の関係を豊かなフロウで暴く、生成AI時代の預言の書。

【直木賞】

河崎 秋子

『ともぐい』

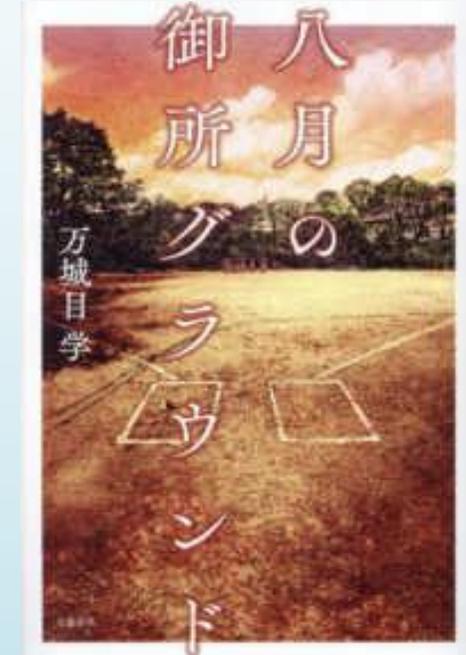


明治後期の北海道の山で、猟師というより獣そのものの嗅覚で獲物と対峙する男、熊爪。凶らずも我が領分を侵した穴持たずの熊、蠱惑的な盲目の少女、ロシアとの戦争に向かってきな臭さを漂わせる時代の変化……すべてが運命を狂わせてゆく。人間、そして獣たちの業と悲哀が心を揺さぶる、河崎流動物文学の最高到達点。

【直木賞】

万城目 学

『八月の御所グラウンド』



女子全国高校駅伝一都大路にピンチランナーとして挑む、絶望的に方向音痴な女子高校生。謎の草野球大会一借金のカタに、早朝の御所Gでたまひで杯に参加する羽目になった大学生。京都で起きる、幻のような出会いが生んだドラマとは一人生の、愛しく、ほろ苦い味わいを綴る傑作2篇。